令和４年度 第１回 荒尾市観光振興計画策定等委員会 議事録要旨

日 時：令和４年５月20日（金） 午前10時00分～午前11時30分
場 所：荒尾市役所 11号会議室
出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員19名 （別紙出席者名簿のとおり）
事務局：産業振興課課長 岩下和隆、同観光推進室室長 寺田理恵、同副主任 平山裕也、
同副主任 緒環良
オブザーバー：荒尾市観光協会 池田明裕

１．開会
事務局が、開会のあいさつと資料の確認を行った。

２．開会あいさつ
山代委員長が、あいさつを行った。
・新型コロナウイルス感染症の感染状況も落ち着きを見せつつあり、観光振興においても明かりが見えてきたと感じている。次のステップとしてマスクの着用について議論がされているが、マスクを外せる日も近づいていると感じている。
・外国からの訪日旅行も予約が入ってきていると聞く。人が動き出した時に荒尾市としてどうするかについては、委員各位の英知をお借りし、計画としてまとめることができたので、産官学で連携し、実行に移していきたい。
・計画の推進に当たっては、荒尾市を愛する情熱が重要になると思うので、情熱をぶつけ合いながら、素晴らしい荒尾市につながっていくことを願う。

３．委員紹介
事務局が、今回から新たに参画する委員の紹介を行い、それぞれからあいさつを行った。

４．経過報告
事務局が、前回会議からの経過報告として、資料２に基づき「みんなで創る“あらお旅”推進プロジェクト 概要版」の作成について、資料３に基づき「訪日客誘致戦略」の作成について、資料４に基づき「令和３年度第１回荒尾市観光振興計画策定等委員会企画部会」の開催結果について、説明を行った。質疑等はなかった。

５．議事
（1）令和３年度の成果検証について
事務局が、資料５に基づき説明した。意見等は以下のとおり。
【意見等】
○ 万田坑への炭鉱電車の移設について、具体的にはどのように展示するのか。
事務局 現時点では検討中であるが、有料区域内に移設することや、運転席に乗車できるようにすることなど、少しずつ決まってきている。動態保存ができるかどうかが大きな関心事だと思うが、費用の問題が大きく、難しいと考えている。
○ 費用の問題は理解できるが、動かせるかどうかで集客に大きく影響すると思うので、最善策を検討してほし

い。

○　コロナ下であったが、イベントを含め取組状況がよく分かった。感染状況も落ち着いてきたので、これからの動きに期待したい。

○　市立図書館がリニューアルオープンしたことで、若い世代の来訪が多くなっている。市外からも興味関心を持ってもらっているので、観光素材のひとつとして、どのように活用するのかをみんなで検討したい。
観光アプリはリリースされたことも知らなかった。

事務局　観光アプリは、機能の運用面を十分に詰め切れていないところもあったので、敢えてまだプロモーションをしていない状況である。ポイント制度やクーポン機能など、民間事業者の協力を得る部分もあるので、運営面での協議調整を行い、アプリ自体の魅力が高まってから、改めてプロモーションしたいと考えている。

○　イベントが開催される際は積極的に関わっていきたいと考えている。

○　訪日客誘致戦略について、体験型コンテンツの充実を後半に遅らせている理由は何か。体験型コンテンツについてのニーズが多いので、早めに整備されてはどうかと思う。訪日リピーターなどは九州方面への関心も高まっているので、できるだけ早期に取り組む方がよいと考える。
また、計画本体における施策と訪日誘致戦略における事業の関連性はどのようになっているか。
また、おもやいタクシーに関して検討するサブスク制度は観光客向けに限定するものか。

→　おもやいタクシーについては、現状 2 台での運行なので、キャパの問題もあり基本的には市民をターゲットにしている。サブスク制度は観光客を新たに取り込むために実施するもので、観光客に限定することは考えていない。

事務局　体験型コンテンツの充実に関しては、収益性が確保できる運営体制ができていないことが課題で、荒尾漁業協同組合をはじめ民間事業者が主体となる部分が多いので、時間をかけて取り組んでいくこととしていた。関係事業者を巻き込みながら少しずつ取り組んでいきたい。
訪日客誘致戦略については、コロナ禍で見通しが立てづらい中でも戦略的に施策を展開するため、計画本体における訪日旅行誘致に関する部分を別冊でまとめたものである。各施策に基づく事業については、毎年度策定する実施計画に位置付けて進捗管理を行う予定である。

→　マジャク釣り体験については、問合せは受けるが、認知度は低いと実感する。場所の案内をすることもあるが、慣れないところもあり対応が難しい。さらに、初心者だと 1～2 匹しか釣れないことが多く、満足してもらうのが難しいと感じている。

○　新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらの運営になると思うが、引き続き集客事業を積極的に進めてほしい。

○　観光客にとっての交通の便は他地域でも課題になっている。荒尾市にはおもやいタクシーが運行しているが、市民利用が中心とのことなので、今後観光客に利用してもらうための事業も検討していく必要がある。

→　当初、おもやいタクシーは、地域公共交通の補完的な位置づけで導入したものであり、行政とも連携し先

進事例として取り組むことができていた。引き続き利用促進を図りたい。

○　観光施策が成功するためには時代に合っているかどうかが重要だと思っており、おもやいタクシーは時代に合っていたということだと思う。人口が減っている中、各種指標を伸ばす計画になっているので、厳しい状況であると思う。

→　定住人口が減る中で地域活性化を図るためには、交流人口を増やすことが重要だと考えるため、観光振興に努めていきたい。

○　観光振興はまちづくりそのものであり、観光産業は地域の総合産業であると考えている。本日の会議資料には貴重な情報も多く入っているので、各団体の中で共有してほしいと思う。概要版のパンフレットもとてもよくできており、特にワークシートの部分は他地域でもない事例で、使い勝手も良いと思う。ぜひ共有していただき、“One team”の輪を広げて、一緒に動いてくれる人を増やすようにしていきたい。
また、観光は時代の変化を映す鏡であり、観光のスタイルを見るとその時代の価値観が分かると考えている。時代を先読みし、今後求められるであろうことを先取りして対応を考えていくことが重要だと思う。本日の会議でも、「SGDs」や「VR」、「サブスク」、「デジタル決済」など、キーワードが多く出てきている。「関係人口」という考え方も重要で、荒尾市に観光に来てもらわなくとも、ふるさと納税やオーナー制度など関係の形は様々あるので、時代に合わせた取組みを期待したい。
KPI を見ると、万田坑入坑者数や修学旅行宿泊校数、HP 閲覧件数など、伸びているところはすごいと思う。食のイベントの有効性や、近隣からの集客の可能性など、伸びしろを感じることもできた。修学旅行も、コロナ禍によるものかもしれないが、実際にこれだけの来訪があっていることは事実であり、すばらしいと思う。今後は、レジャーだけでなく、教育的な観点からの高付加価値化を官民連携で進めていくとよいと思う。
情報発信の強化に向けては、参考だが、観光協会や行政に情報を集約し、月に 1 回ニュースレターとして定期的にメディアに配信することも考えられる。

（2）令和 4 年度の実施計画について

事務局が、資料 6 に基づき説明し、内容については承認された。意見等は以下のとおり。

【意見等】

○　各種事業の実施に当たっては、費用の問題が出てくると思う。誰がどの程度負担するのかという点も協議していきながら、進めていければと思う。

○　マガキの養殖について、2 年後の生産量はどの程度になる見込みか。

→　数字を示すのはなかなか難しいが、ある程度の量は確保できると思っている。今後設置する道の駅に牡蠣小屋を作ってほしいと思っており、道の駅であれば滞在時間の延長になるだろう。

６．各団体からの情報発信

関係団体間での情報共有を密にし、相互の情報発信を進めるため、各団体から情報発信を行った。内容は以下のとおり。

【発信内容】

○　「あか牛」などの熊本県の食材を使って、荒尾市の産品とコラボしたメニュー開発を行いたいと思っている。アイデアがあればいただきたい。

○　市立図書館のラッピングバスを運行している。熊本方面に運行するバスを使っているので、PR に貢献できればと思う。

○　海行原ふるさと愛好会の主催で「とうもろこし直採り販売会」が実施される。10 年以上続けているイベントなのでお越しいただきたい。

７．その他

事務局が、報告事項を行った。内容は以下のとおり。

・議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力をいただきたい。

・6 月を目途に企画部会を開催するので、メンバーの選出などについて協力をいただきたい。

８．閉会

事務局が閉会を宣言した。